

自己点検・評価の実施について

福島看護専門学校

1. 実施の趣旨

現在は、教育水準の維持向上と創意工夫のある教育への追求を計ることが求められる。本校が自己点検・評価に積極的に取り組むことにより、現状の分析・検討を行い教育活動、学校運営を見極め、教育活動の改善・向上を図るため、実施する。

2. 経緯

本校は平成 19 年 4 月に看護師養成 3 年課程の「福島看護専門学校」として開校し、平成 30 年度 12 期生までが入学している。平成 14 年 4 月専修学校設置基準の一部改正により専修学校は自己点検・評価の実施と公表が努力義務化され、平成 19 年には義務化となった。平成 22 年度より本校においても一部、自己点検・評価を実施してきた。平成 29 年度より学校評価委員会を立ち上げ、自己点検・評価を取りまとめ、現在に至る。

3. 自己点検・自己評価の目的

福島看護専門学校の教育理念の基に、「教育目的がどのように達成されているのか」また、「養成所としての水準をどのように維持・向上させているのか」を点検するため自己点検・自己評価を行った。

4. 評価項目

- I 教育理念・教育目的
- II 教育目標
- III 教育課程経営（教育課程経営の活動）
- IV 教授・学習・評価過程
- V 経営・管理過程
- VI 入学
- VII 卒業・就業・進学
- VIII 地域社会/国際交流
- IX 研究

5. 個人情報・守秘義務の取扱い規定の遵守

I 教育理念・教育目的

- 点検 1. 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。
- 点検 2. 教育理念・教育目的は、法との整合性がある。
- 点検 3. 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針となるように具体的に示している。
- 点検 4. 教育理念・教育目的は、実際に学生の学習の指針になっている。
- 点検 5. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。
- 点検 6. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法とるのかを述べている。
- 点検 7. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質の保証するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。
- 点検 8. 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。
- 点検 9. 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。
- 点検 10. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。
- 点検 11. 卒業時にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。

令和3年度評価結果

結果は、前年度よりも0.1ポイント上昇し2.9となった。評価理由をみると、点検4で評価理由に「学生に伝わっていない」「学生自身が意識できているとは言い難い」とある。これは、学生には学生便覧が配布されているため、学生への働きかけとして教員が積極的に行う必要がある。1年次は入学時のオリエンテーションや看護概論系の講義など折に触れて活用されている。2, 3年次は講義での活用は少なくなるため、進級時のホームルームで下級学年との違い、学年目標、時間割の特徴(学び)、学校内での役割、卒業時に期待される学生像なども説明したりする必要がある。

点検6, 7の評価理由に「具体的ではない」とあるが、学生便覧、学習内容、実習要項にも示している。

点検8, 9, 10の評価理由に「明確でない」とある。看護・教育・卒業時に期待される卒業生像などの明示がある。ただし、学生観に関しては、新入学生の全体像を教員間で共通認識することが必要かもしれない。

令和4年度評価結果

評価結果は3.0で満点となった。各教室に教育理念・目的を掲げ、学生に目に触れる機会となった。令和5年度は教育理念・目的を学生は、オリエンテーション等以外にも定期的に触れる機会を作る。1年生時は、入学時、戴帽式前の看護観作成時、2年生は進級時にホームルーム等で確認し、戴帽式の時期には自分の看護観を改めて考える。3年生は領域実習前に領域別オリエンテーションで確認、領域実習終了時に看護観を作成するなど3年間を通して段階的に思考過程を創る。この時に必ず教育理念・目標を意識させ、看護師として目指すべき姿であることを考えさせる。また、教員は教育理念・目標の意味を理解し実習や講義準備時や講義中にも触れていく機会を持つことで、さらなる浸透させていけるのではないかと考える。

II 教育目標

- 点検 1. 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。
- 点検 2. 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。

- 点検 3. 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。
- 点検 4. 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。
- 点検 5. 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。
- 点検 6. 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。
- 点検 7. 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。

令和 3 年度評価結果

項目として昨年度より 0.1 ポイント上昇し 3 となった。昨年同様に点検 4, 5 で「2、やや当てはまる」の評価もあり、到達レベルの明確化が理由である。教育目標は最終的に卒業時に期待される学生像として明示されているため、教育活動のゴールであり、到達レベルとの対応がなされている。

令和 4 年度評価結果

評価結果は 3.0 だった。教育目標がディプロマ・ポリシー（以下、DP とする）に変わり内容も具体的で分かりやすくなったことが 3.0 に結びついていると考える。

また、DP は段階的に学年の目標としても取り入れ易いと思うため、学年活動にも意識していくようにしたい。

Ⅲ 教育課程経営

令和 4 年度評価結果

令和 3 年度 2.2 ポイントから令和 4 年度 2.9 ポイントに上昇となった。

〈教育課程経営者の活動〉

- 点検 1. 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。
- 点検 2. 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。

令和 3 年度

「2. やや当てはまる」と評価され理由として、「教員によって解釈が違う」「全体としては不十分」とあった。ただし、分野設定、科目設定は示されているため基本的考え方は統一されている。また、新カリキュラムは教員全員で作成しているため、統一される。新入教員等があった場合は、分野設定・科目設定理由を示す。

令和 4 年度

全職員が「3、当てはまる」と回答している。カリキュラム作成時から用語の意味や科目設定理由などに関りを持ちそれぞれの考えを反映できたためと思われる。

〈教育課程経営の考え方とその具体的な構成〉

- 点検 3. 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。
- 点検 4. 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。
- 点検 5. 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。

令和 3 年度

評価は、当てはまる・やや当てはまるとあるが、評価理由に「根拠が必要」とあった。昨年同様カリキュラム評価、授業評価については実施されている。また、根拠になるものとして分野設定・科目設定理由、構造図、学年目標、卒業時に期待される学生像として明示されている。

令和4年度

構造図で考えを示している。構造図では教育理念を土台として三年間で身につけてほしい力分野ごとの設定理由、教科外活動の意味を丁寧に説明しており、分かりやすく提示出来ている。

〈科目、単元構成〉

点検 6. 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。

点検 7. 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。

点検 8. 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。

点検 9. 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。

点検 10. 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。

令和3年度

「2. やや当てはまる」と評価されているが、新カリキュラムで改善される

令和4年度

科目設定理由を定め、科目の配列などをカリキュラムツリーで示している。各学年段階を踏み主体的に学べるようディプロマ・ポリシーと合わせて考えている。

〈教育計画〉

点検 11. 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。

点検 12. 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。

点検 13. 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目を配列している。

令和3年度

単位履修の方法とその制約についてわかるように明示しているに対して「分かりにくい表現がある」と評価理由があった。学生便覧の「履修方法」を見直し、訂正表示した。学年担当からの説明や声掛けをし、学生には学生手帳を活用し、単位取得の意識付けを行う。

令和4年度

学生便覧に示しており、入学時はオリエンテーションで説明し、授業の出席状況を教員が管理している。また、学生自身が授業の出席状況を管理できるように適宜声掛けも行っている。特に、子育て中の学生には（子どもの看病など）欠席が多くなることもあるため、学生自身が管理できるように意識付けしている。

〈教育課程評価の体系〉

点検 14. 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。

点検 15. 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。

点検 16. 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。

点検 17. 教育課程を評価する体系を整えている。

点検 18. 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。

令和3年度

点検 18 の評価理由に「規定はあるが、明確ではない」とある。倫理指針、「研究成果の発表」第8条に定められている。

令和4年度

点検 16 に対して「2、やや当てはまる」の回答があり、単位の互換性、基準の明確化課題と理由が書かれていた。本校では、「既修単位の認定」として定めている。

〈教員の教育・研究活動の充実〉

点検 19. 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。点検 20. 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。

点検 21. 教育課程の実践者である教員が、自ら成長できるよう自己研鑽のシステムを整えている。

点検 22. 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。

令和 3 年度

点検 20 の評価理由に前年度同様の内容があった。実習時間中も学校に戻り授業準備をすることは許可されているため、臨地実習指導者との調整の必要性は同様である。また、実習場に複数の教員がいる場合は、協力しあい調整する。

点検 21. 22 は、研修制度の整備、図書券での学習補助、特に今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、研修もオンライン実施も多く可能な時は教員も全員参加できた。今後も同様に、個々の研修参加は学びの共有の場を設ける必要がある。しかし、なかなか時間がとれないのも現状であり、時間を作る努力が必要である。

令和 4 年度

各点検項目に対して、「2、やや当てはまる」の回答があり、特に点検 20、21 が多い。理由は、「多重業務のため授業準備が十分にできない」「授業準備のために時間を取れる体制はあるが、なかなか時間が取れない」などの回答がある。実習施設との調整も必要であり、コロナウィルス感染状況により実習病院側も人員が少ない中での実習指導のため、教員のみで実習指導を行っていることも現状にある。

実習施設への調整として、教員だけでなく学校管理者からも再度授業準備について説明をしている。

自己研鑽・相互研鑽については、昨年と同様である。オンラインのため複数の教員が参加できる。

〈学生の看護実践体験の保障〉

点検 23. 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。

点検 24. 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。

点検 25. 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。

点検 26. 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。

点検 27. 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。

点検 28. 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。

点検 29. 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。

点検 30. 臨地実習において学生が関係する事故を把握・分析している。

点検 31. 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。

令和 3 年度

点検 23～27 までの評価理由に「施設により差がある」が多く挙げられた。実習指導員会や指導者と情報交換を行い実習を行っている。施設ごとの差が学生に不利益が生じている状況ではないため、連携を密に学生の支援を行えるようにする。

令和 4 年度

点検 23～27 では「2、やや当てはまる」の回答もあり、「実習施設側が理解しているかが不明」との回答がある。臨地実習要項には教育理念、教育目的、教育目標が記載されている。実習指導要項は実習指導者も目を通す機会も多くあるとおもわれるが、臨地実習要項には目を通す機会も少ないと考える。今年度までは新型コロナウイルス感染対策のため、実習指導者会への参加もほぼ無かった。令和 5 年度は、実習指導者会の参加を依頼し実習説明をするときに教育理念等と結び付けて説明ができると良いと考える。また、オンライン等の会議であれば、実習説明の時間を設けていただき、オンライン参加できるようにしたい。

IV 教授・学習・評価過程

点検 1. 授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容として設定されている。

点検 2. 授業のまとまりの考え方を明確に述べている。

点検 3. 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を持っている。

点検 4. 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。

点検 5. 授業内容間の重複や整合性、発展性などが明確になっている。

令和 3 年度評価結果

R2 年度 2.3⇒令和 3 年度 2.4 と上昇がみられた。令和 4 年 4 月入学の 16 期生より新カリキュラムに沿った新たな学習内容（シラバス）での授業が開始となる。

授業内容は、科目のまとまりや目標など学習内容（シラバス）を通して明確に明示することができている。

令和 4 年度評価結果

令和 3 年度 2.4⇒令和 4 年度 2.9 と上昇がみられた。新カリキュラムの学習内容を教員間で意見交換し、カリキュラム編成にあたったため、内容の共通理解に繋がったためと考えられる。今後も進級時や新たな科目履修時など、学生に対し、科目間の繋がりや発展について説明していく必要がある。

点検 5 では、2.7 と他に比べて低い。評価した理由としては「講義のまとまりや考え方は明確であるが、実践できていない」との主観的意見もみられている。今年度は、新カリキュラム導入 1 年目であり、授業内容について実感が持てていないことが影響していると考えられる。授業内容については、学習内容、カリキュラムツリーに示されている。自己評価点検基準については評価のたびに示しているが、評価内容に「重複や発展性明記不足のところも」「学生の中で整理できていない」という意見もあり、前述同様、主観的意見や個人評価・他者評価のような内容になっている部分がみられる。今後も学校評価として評価すること、個人の評価とは異なることを周知していく必要がある。

個人的な評価以外はおおむね「当てはまる」との回答が得られている。

<授業の展開過程>

点検 6. 授業形態（講義・演習・実験・実習）は授業内容に応じて選択している。

点検 7. 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。

点検 8. 授業の展開過程の他に学生の学習が深化し、発展するための方法を意図的に選択し学習を支援している。

点検 9. 学生に対し効果的な教育・指導を行うために教員間の協力体制を明確にしている。

令和 3 年度評価結果

点検 9「学生に対し効果的な教育・指導を行うために教員間の協力体制を明確にしている」について「無回答」がみられた。コロナまん延による授業形態や演習内容の変更、遠隔授業による変更など、新たな教授内容を見出すことの必要性についても検討事項となった。そのような状況の教育・指導に対する戸惑いなどが無回答につながったと考える。

令和 4 年度評価結果

評価は「当てはまる」としている回答が大半を占めるが、評価理由として「教員間で相談する時間が十分とれずに講義することがある」「教員同士講義内容の話し合いや意見交換が必要か」「検討を要する」とあった。しかし、授業の組み立てに対して、教員間での意見交換を各自で持つことはで

きていた。教員の協力体制についても、協力を依頼する手段は明確になっており、評価内容には個人の主観的意見がみられた。新カリキュラム導入 1 年目であり、初めての科目を担当する教員は、教育目標にそった授業科目を理解し、授業展開ができているか不安であったことが考えられる。お互いにどのように教授していくかというアプローチの方法や科目同士のつながりを考えた内容など授業づくりにおいて、相互の話し合いは必要と考える。新年度からは、新カリキュラム運用 2 年目となるため、授業内容をどう展開していくか、今年度の授業評価をフィードバックしながら教員間での意見交換も活発に行っていく必要がある。

<目標達成の評価とフィードバック>

点検 10. 評価計画を立案し実施している。

点検 11. 評価結果に基づいて実際に授業改善している。

点検 12. 学生及び教育活動を多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている。

点検 13. 教育目標の達成状況を多面的に把握している。

点検 14. 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。

点検 15. 単位認定の評価には公平性が保たれている。

令和 3 年度評価結果

点検 11、「評価結果に基づいて実際に授業改善している」で 6.7%「当てはまらない」との回答がみられた。「講師による」という回答もみられ、授業評価のフィードバックを教員、講師の授業計画に活かせるようにしていく必要がある。令和元年から引き続き、授業評価の振り返りが提示されているため、引き続き継続していく。

点検 15「単位認定の評価には公平性が保たれている」について 20%「やや当てはまる」との回答が見られたが、学生便覧に単位認定の評価については明示されており、公平性は保たれている。自己点検における差異については、教員の認識の違いによるものであると考える。学生便覧の共通理解が必要である。

令和 4 年度評価結果

ほとんどの回答として「当てはまる」とあり、改善がみられている。評価理由として「全体として不足はあるか」との回答があり、教育目標の達成状況に対して多面的な評価が不足しているという意見があげられている。しかし、実際にはカリキュラム評価、授業評価、学生評価などの評価指標があり、不足とは考えにくいいため個人の理解や捉え方の違いと考える。個人的意見以外をみると、評価が上昇している。今後も学校評価についての周知は必要である。

<学習への動機づけと支援>

点検 16. シラバスの掲示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。

点検 17. シラバスの掲示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。

令和 3 年度評価結果

シラバスについては、教員間で提示の仕方や活用方法など、共通して学生に伝えている。「利用が少ない」という回答も見られたが、教員のアプローチによるシラバス活用の促しをするなど、意図的な関わりも必要であると考え。

令和 4 年度評価結果

全員が「当てはまる」と回答している。学習内容（シラバス）の活用に関しての共通理解が高まったと考える。引き続き、教職員、学生ともに活用できるよう促していく。

V 経営・管理過程

＜設置者の意思・指針＞

- 点検 1. 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している
- 点検 2. 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している
- 点検 3. 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している
- 点検 4. 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している
- 点検 5. 明示した管理者の考えと設置者の意志とは一貫性がある
- 点検 6. 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している

令和 3 年度評価結果

前年度同様ほぼ全員があてはまると回答しており、教育理念・教育目的・教育課程経営についての考え方は明示されているといえる。

「ややあてはまる」と回答した教職員は養成所の設置者と管理者の考え方がわかりにくいことを理由としている。

全教職員が養成所の教育理念、教育目的を理解し管理運営に関心がもてるよう、理事会の資料の配布や、定款の内容を理解するための機会を設けていく

令和 4 年度評価結果

全教職員が当てはまると回答しており、養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置の意思との一貫性を持って明示しているといえる。

また、設置者の意思・指針と経営・管理にあたる管理者の考え方を、全教職員が理解しかつ浸透してきたと考えられる。

＜組織体制＞

- 点検 7. 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている
- 点検 8. 意思決定システムが明確になっている
- 点検 9. 意思決定システムは、組織構成員の意志を反映できるように整えられている
- 点検 10. 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている
- 点検 11. 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある
- 点検 12. 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある

令和 3 年度評価結果

「決定事項を周知しきれていない」「権限や役割が不明確」と評価する教職員がいたが、組織構成及び役割分担については明確な規定に基づき文書で明示されている。全体の意思決定システムとして職員会議があり、教職員は全員出席するため決定事項の周知はされている。

自己点検は個人を評価するものではなく、学校運営を評価するものであると周知を継続し、自己点検の評価基準について詳細に説明していく

評価基準を理解したうえで、自己点検を行い教職員全員で経営意識を持てるようにする。

「教職員の任用が不明確」との回答があったが、教職員の任用に関しては指定規則を遵守して任用しており、教務事務や図書館司書も配置している

今年度は、新型コロナ感染防止のため WEB 上での研修が多く、またカリキュラム改正のむけての研修も複数あり多数の教員が研修を受講することができた

令和 4 年度評価結果

ほとんどの教職員が当てはまると回答している。

このことから、組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能の明示、また組織構成員の意思の反映や決定事項の周知が徹底されたといえる。引き続き周知徹底に努める。

教職員の任用については指定規則を遵守しており、教育理念・教育目的達成との整合性のある組織体制といえる。

<財政基盤>

点検 1 3. 財政基盤を確保することについての考え方が明確である

点検 1 4. 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている

点検 1 5. 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している

点検 1 6. 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている

令和 3 年度評価結果

養成所の財政基盤について、「やや当てはまる」と評価した教職員が複数おり、説明が必要であるとコメントしている。

理事会の資料配布だけでなく、理事会事務局から財政基盤について説明の機会を設ける。財務情報は学校のホームページにも掲載している。

教職員自身も学習・教育の維持・向上のために財政基盤の確保について理解するための努力が必要である

令和 4 年度評価結果

ほとんどの教職員が当てはまると回答し平均 2.9 となっている。

財政基盤をどのように確保しようとしているのかについての考え方や、その考え方が学習・教育の質の維持・向上につながっているのかについて学校が明確にしているといえる。

また、教職員はどのような財政基盤によって成り立っているのかを理解し、それぞれの観点での財政についての意見が経営・管理過程に反映できていると考える。

評価のコメントで教職員自身を評価するようなコメントがあった。今後とも自己点検の目的・方法について周知していきたい。

<施設設備の整備>

点検 1 7. 学習・教育環境の整備について管理者の考え方を明示している

点検 1 8. 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している

点検 1 9. 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している

点検 2 0. 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している

点検 2 1. 養成所が設置されている地域環境との関連から学生及び教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している

点検 2 2. 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している

令和 3 年度評価結果

「面談室がない」というコメントがあったが、財政状況等を考慮すると面談室を増設することは困難である。学生との面談が必要な際は、情報処理室、演習室、調理実習室などの使用を検討する。

カリキュラム改正に伴い、演習用の教材や ICT 活用のための機材を計画的に購入予定である

学習環境充実のための備品等を計画的に購入しており、職員会議や教務会議で必要に応じて報告している

また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、不織布マスクや消毒薬の購入も計画している。
物品を使用する際は、整備計画の基づくものであることを、物品を使用する教職員が意識する必要がある

令和4年度評価結果

ほとんどの教職員が当てはまると回答しており平均2.9である。
学習・教育環境について、管理者がどのような考え方をもって整備しようとしているかを明示し、その考え方に基づいて整備計画を立案し、実施しているといえる。
看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。新型コロナウイルス感染拡大に伴う備品の整備など、社会情勢に合わせて必要な施設設備を整備・改善した。
学生および教職員にとっての福利厚生施設設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備されているといえる。
今後とも、学生が快適な学生生活を送ることができるよう整備していく。

<学生生活の支援>

- 点検23. 学生が入学後に学業を継続できる支援体制を多角的に整えている
- 点検24. 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている
- 点検25. 支援体制は、実際に活用され、学修の継続を助けている

令和3年度評価結果

ほぼ全員が当てはまると回答しているので、学生生活の支援は整っているとの評価だった。「やや当てはまる」の評価の理由に学生の意見を反映できるとよいとあった。
学生はカリキュラム評価にて、教育課程や支援について評価し意見を述べる機会がある。
支援が必要な学生には保護者と学生、教員での面談も適宜行っている
成績表は前期・後期2回に分けて、保護者に送付している。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月以降Zoomでの講義となったが、担当教員は毎日ホームルームで健康状態を確認し学生の支援に努めた

令和4年度評価結果

学生生活の支援については、全員が当てはまると回答しており支援体制が整い、その支援は実際に活用されているといえる。今後とも学生が学生生活を継続できるよう支援していく。

<養成所に関する情報提供>

- 点検26. 教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている
- 点検27. 関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている
- 点検28. 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている
- 点検29. 広報の内容は、社会的責任を果たすものになっている

令和3年度評価結果

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、懇話会は開催できなかったため、資料を送付し情報を提供した。
入学式・戴帽式・卒業式では、保護者の出席は1名のみの出席で縮小して開催し、学校側から保護者へ情報を提供する機会が少なくなった。
学内での様子を、ホームページへ掲載し情報提供に努めた。
新型コロナの影響で中止となった行事が多く、看護師養成所としての存在を十分

アピールする場が少なかった。

ホームページで、学校評価の報告や財務情報を掲載していることで、社会的責任を果たしている。

令和4年度評価結果

関係者（臨地実習施設・講師等）への情報提供するために、教育・学習活動に関する資料を送付した。また、ホームページを随時更新し学校生活、学校評価の報告や財務情報を掲載していることで、社会的責任を果たしている。

保護者へも同様の情報提供をすることで、後援会より協力・支援を受けている。

<養成所の運営計画と将来構想>

点検30．養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している

点検31．その実施・評価は将来構想との整合性をもっている

令和3年度評価結果

年間行事等の計画は、前年度の実施状況の評価して立案している。

新型コロナ対策や、カリキュラム改正など社会的背景の状況に合わせて修正している。

令和4年度評価結果

ほとんどの教職員があてはまると回答している。

養成所の運営は明確な将来構想の基に、中・長期計画、短期計画、毎年の運営計画実施・評価は整合性をもっているといえる。

<自己点検・自己評価体制>

点検32．自己点検・自己評価の意味と目的を理解している

点検33．実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にしている

点検34．自己点検・自己評価体制を整え、運用している

点検35．自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している

点検36．自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的・教育目標の維持・改善につながるよう機能している

令和3年度評価結果

学校評価は全教職員が評価し、第三者の評価も受けて学校のホームページに掲載している。しかし、自己点検を行うための知識と方法が明確でないと回答している教職員もあり、学校評価の意味と目的の説明を今後も継続していく。

自己評価を行うための資料として、自己点検のための評価基準、前年度の自己点検の結果を配布している

教職員自身が、学校運営について組織の一員であるという意識を高める必要がある。

令和4年度評価計画

ほとんどの教職員が当てはまると回答している。

自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、自己点検を実施できたといえる。

養成所の自己点検・評価体制を整え、運用することができた。

評価体制が整ったことで、養成所のカリキュラム運営、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善することができた。教職員自身が、組織の一員であるという意識が高まってきたと考える。

VI：入学

点検 1. 教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか。

点検 2. 入学者状況、入学者推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析、検証している。

令和3年度評価結果

令和2年度 2.8⇒令和3年度 2.9 と上昇がみられた。入学者選抜については、教職員全体で判定会を行い、選抜することができており、選抜方法や考え方についても明確になっている。また、入学者の傾向などを分析し、学校訪問を計画的に実施することができている。訪問計画についても職員会議を通して教職員に周知されている。令和4年度新カリキュラムではアドミッションポリシーを掲げ、どのような学生に入学してほしいか、という入学者の受け入れ方針についても明示している。

令和4年度評価結果

令和3年度評価 2.9⇒令和4年度評価 3.0 と上昇がみられた。
新カリキュラムよりアドミッションポリシーとして入学者の受け入れ方針についても明示している。入学者選抜、判定会についても教職員全体で実施している。入学時の面接内容についても、アドミッションポリシーをふまえた内容の導入を図るなどしていることから、教職員の理解や意識が高まったと考える。

VII 卒業・就業・進学

点検 1. 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。

令和3年度評価結果

令和2年 2.7⇒令和3年 2.8 と上昇がみられたが、15.3%「やや当てはまる」がみられ、「検討が必要」という回答もみられる。しかし、卒業においては卒業判定会による卒業判定を行っている。また技術到達度の確認や卒業時のカリキュラム評価も実施しており、卒業時の到達状況評価は計画的に実施することができている。

令和4年度評価結果

全員が「当てはまる」と回答している。卒業判定会や卒業時カリキュラム評価、技術到達度確認なども計画に行われている。

点検 2. 卒業時の到達状況を分析している。

点検 3. 卒業生の就業・進学状況を分析している。

点検 4. 卒業生の到達状況、就業、進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。

令和3年度評価結果

令和元年より同窓会誌発行を実施している。同窓会誌に、同窓生の近況を掲載するなど、学校とのつながりを維持することができている。同窓会役員のグループ LINE を通し、役員からの発信も行

っている。

令和3年度は同窓生の認定看護師2名による講演をZoomで実施した。しかし、卒業後の到達状況や就業・進学状況について分析にまで至っていないことから、今後も検討が必要であるとする。

令和4年度評価結果

全員が「当てはまる」と回答している。卒業生の就業・進学について分析を行い、次学年の就業・進学の情報収集などにも活かすことができている。

点検5. 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。

点検6. 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。

令和3年度評価結果

令和3年度はコロナ禍により臨地実習が例年通りない状況が続き、病院側との情報交換の機会が減ってしまった。年2回開催予定の指導者会も年1回の開催となった。そのため、卒業生の評価や把握が難しかったと考えられる。令和2年度の評価から引き続き、ではあるが、これまでも具体的な評価について、把握しきれない状況もあるため、今後も評価する手段について検討していく必要があると考えられる。

令和4年度評価結果

評価内容として「情報収集の方法、なかなか情報を得られないのが現状なのか」「具体的な評価までできていない」「情報手段が少ない」などの意見があげられた。前年度同様にコロナ禍にあり、臨地実習が例年通りにできない状況や対面での実習指導者会ができない状況があった。それにより、就業先での卒業生の状況について情報交換ができなかったことがあげられる。現在は、同窓会役員を通じて卒業後の資格取得や進学状況について情報収集している状況である。

点検7. 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。

点検8. 卒業生の活動状況の分析結果を教育理念、教育目的、教育目標、授業展開に活用している。

令和3年度評価結果

10%「当てはまらない」という回答がみられた。病院からの卒業生の活動状況報告、写真などは、学内に掲示、教職員は回覧をしている。しかし、活動状況の分析までは至っていないため、当てはまらないとの結果が出ているとする。今後も卒業生の活動状況について把握し、調査分析できるようにしていく必要がある。

令和4年度評価結果

評価内容として「把握しているとはいえない」「分析まで至っていない」「情報収集の方法、なかなか情報を得られないのが現状なのか」などの回答がある。点検5.6同様、同窓会役員会を通じての情報収集が主となっている。分析までには至っていない。しかし、今年度は4名の卒業生が就職先を代表して病院説明、進路相談に来校して在校生との交流を図った。このような機会を積極的に増やし、卒業生の活動状況の把握に努めていく必要がある。また、同窓会誌の発行（年1回）を継続している。会誌を通じて、卒業生の近況報告ができている。学校HPにおいても「卒業生の声」を通して卒業生の資格取得や活躍について報告している。今後はHPのアクセス数の把握も必要である。学校からの呼びかけやHPを充実するとともに、卒業生が主体となり情報交換できるツールや機会づくりを検討することが必要とする。

VIII 地域社会・国際交流

点検 1. 社会との連携に向けて、地域ニーズを把握している。

点検 2. 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。

令和 3 年度評価結果

昨年に引き続き、コロナ禍によりボランティア活動の制限など、学生が地域に出ていけない現状があった。しかし、学生がコロナワクチン接種のスタッフとして地域に貢献する機会があった。また、体育講義内で信夫山に上り地域を散策したり、昨年度コロナまん延により実施できなかった小学校、支援学校実習が実施できたりと、地域の現状について知る機会を得た。地域保健論などの講義においても地域の公衆衛生についてグループワークをして発表するなど、地域社会を知り関わっていく手段はあると考える。令和 4 年度 16 期生からの新カリキュラムにおいても、地域社会との連携やニーズの把握などを知るための科目もあることから、引き続き評価していく必要がある。

令和 4 年度評価結果

点検 1. 2 については、ほとんどの回答が「当てはまる」となっている。新カリキュラム開始に伴い、地域に重点を置いた科目も始まったことにより、今まで以上に地域社会や地域のニーズについて目を向けていく必要性への理解が高まったと考える。

点検 3. 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている。

点検 4. 養成所から地域社会への情報を発信する手段を持っている。

点検 5. 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。

点検 6. 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。

令和 3 年度評価結果

「当てはまらない」は 0%であるが、「やや当てはまる」が 10%みられる。評価理由としては「不明」との回答もあげられているが、新カリキュラムにおいては地域に視点を置いた科目も設定されている。点検 6「地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている」については、点検 1、2 でも述べた通り、信夫山散策やコロナワクチン接種スタッフなど学習・教育活動として取り入れている。献血活動も年 2 回実施ができています。今後も継続した評価が必要である。今年度よりホームページが新しくなり、見やすさなどが改善された。またスクールガイドについても、今後新しくすることから、学校を拠点とした地域についての発信を、入学希望者に伝えていく。

令和 4 年度評価結果

前年度に引き続き、コロナ禍によりボランティア活動や地域交流が持てない状況にあった。しかし、学生消防団への入団（1 回イベントに参加）、医療福祉連携で他校の学生との交流をはじめとした学外活動の機会を持つことができた。コロナにより一部施設にて臨地実習中止（保育施設、特別養護老人ホーム等）という状況もみられたが、他施設や事業所にも目を向け、新たな実習施設に実習依頼をして、実習を行うことができた。組織として視野が広がり、新たな施設にも学校活動を知ってもらう機会にもなったと考える。

点検 7. 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。

点検 8. 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。

点検 9. 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。

点検 10. 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応することがで

きている。

令和3年度評価結果

令和2年度に引き続き、評価尺度に差異がみられる。回答も「実績がない」「わからない」などがみられる。今後も地域を知ることと共に、地域で生活している外国人やそれらの人々の生活の場について理解を広げ、入学生となることを想定しながら、対応できる準備を整えていく必要がある。令和4年度16期生より電子教科書を導入する。言語の翻訳などを含めたICTの活用など、留学生が学校生活の中で必要となることを予測し、対応できる方法を考えていく必要がある。

令和4年度評価結果

点検7.8において、新カリキュラムの中でも「国際看護」という科目として設定されている。2年次のJICA研修では国際看護を担当する講師の同行を依頼し、より学生が興味・関心を持てる内容に工夫している。カリキュラム評価をしながら今後に生かしていく必要がある。

点検8.9については、前年同様の回答が多くみられた。「実績もないため十分とは言えない」「海外からの受け入れや留学などの体制がない」「入学者減少に伴い整える必要があると感じる」などがあがった。これまでの入学試験において外国人が受験したということもあったが、面接時より、日本語が堪能でないことによる入学後の不都合が感じられた。受け入れ体制を整えるとともに、外国人受験者の選定も重要と考えられる。帰国子女や留学生が入学後の学習環境を整えるとともに、語学力や学力の精査も必要と考えられる。入学後に、親が外国人であるとわかるケースもあるため、地域の現状と学生の現状把握についても引き続き、行っていく必要がある。JICAや国際看護をはじめとした、科目により海外の状況、情勢についても把握しつつ海外で職に就きたいという学生を支援できる情報やサポート機関の紹介なども今後は考えていく必要があると考える。

IX 研究

点検1. 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している

点検2. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている

点検3. 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある

令和3年度評価結果

令和4年度カリキュラム改正にむけて、各自オンラインでの研修に参加したり、資料を活用するなど研究活動を活発に行った。このことにより評価ポイントは、前年度より0.1%上昇した。

しかし新型コロナ感染拡大のため、前年度同様発表の機会は少なかった。

研究時間の確保や研究費の支給、情報検索システムなどの支援体制は明確にしているが、研究者を助言する体制が整っていないと評価する教職員もいる。

今後は研究をするうえで、必要なサポートは何か教員間で話し合う機会を設け、内容を具体化するよう努める

令和4年度評価結果

新型コロナ感染拡大に伴い、研究に関しては難しい状況であるという評価となっている。学内実習や、オンラインでの講義などデータの収集が難しく、研究の計画を立てにくい環境であった。

新型コロナの影響も少なくなってきたことから、今後はアンケート調査などがしやすくなると考えられる。

学生指導を充実させるためにも、教員が研究への意欲を高めることができるよう促していきたい。

また、研究にかける時間の確保について今後とも支援していきたい。

